

三浦外洋セーリングクラブ 理事会議事録

開催日：2023 年 11 月 7 日（火）18:31～20:02

場所：新橋駅前ビル 1 号館 6 階 605 号ダ・ヴィンチ大会議室+Zoom ミーティング

出席者：

理事：飯島、石原、荒嶋、高木、吉田、鈴木、加藤、臼田、黒岩、

Zoom：五十嵐、小川、庄野、尾山、三輪、

監事：小川（Zoom）、最川（Zoom）

顧問：関根、児玉、平松（Zoom）（敬称略）

庄野理事の進行により会議開始時点での参加人数（理事の出席 12 名）が定則を満たしていることから理事会の成立が確認され、飯島会長の挨拶があり、議事録作成には加藤理事、議事録署名には吉田理事を指名し下記議案を審議した。

<審議事項>

1、JSAF 加盟団体規定案進捗

飯島会長より 10 月に行われた加盟団体団体長会議において議題にのぼる予定であったが、JSAF 側の準備ができていないことから継続審議になったことが報告された。

2、会員管理新システム進捗

坂口事務局長から前回の理事会からは進捗がなく、他団体で使用実績のある既存システムをベースに立ち上げる方向だが、外洋団体向けの業務には不足していると思われる機能が見受けられるため、外洋四団体では意見をまとめ、JSAF に提出する調整をしているとの報告があった。

3、クラブ旗の策定について

庄野理事より前回の理事会から円安が進み、300 枚(会員 250 人+α)を製作すると現在の円ドルレートで換算して約 120 万円。1 枚 4,000 円が原価と予想されると報告があった。これに対して製作やデザインに対しては相見積もりを取る方が良いなど意見が出て、まずはクラブ旗を制作するかどうか採決することになり、満場一致で承認可決された。来年度の予算案にはクラブ旗の製作費およびデザイン代として 120 万円を計上することも確認された。

4、2024 年理事会の日程

飯島会長より理事会の日程の新規ご提案があった。

9/3（火）理事会

11/5（火）理事会

2025 年

1/10（金）監査

1/15（水）理事会

2/12（水）総会前理事会

3/12（水）理事会

この日程で理事会が開催されることが承認可決された。

5、2023 年残りレース予定

荒嶋レース委員長より前回理事会からのレース報告があった。

9/10 Shonan Race、9/15 KFR、9/30 YOKOYAMA CUP、10/8 若大将カップが無事開催され、10/15 Shonan Race・KFR の共催レースは低気圧通過のため中止となったこと、11/4～5 小網代カップが無事終了したと報告があった。
今後のレース予定は11/12 Shonan Race、11/17KFR、12/10 Shonan Race、12/15 KFR を開催を予定しているとの報告があった。

6、2024 年レース予定

荒嶋レース委員長より、2024 年度のレース日程について、以下の報告があった。

1/7 新春親善レースを予定。才藤理事が例年通り担当予定。

Shonan Race は来年すべて第2日曜日を予定。

5/11 ショートハンド 1・2・3 を外洋三崎と共同開催予定。

8/3・4 石廊崎レース・トランスサガミをリビエラと共同開催予定。

また、リビエラ側からは、トランスサガミと若大将カップの期間が短いので若大将カップを11月に移動したいとの意向で、その時は小網代カップに被らないように検討していると報告があった。

また、臼田理事から GW のシーボニアレガッタ、相模湾オープンについてはシーボニアヨットクラブが主催すると確認報告があった。

関根顧問よりレース運営について、

リビエラと Shonan Race を共同主催するにあたって、当初は隔月の上下レースで運営艇が2艇必要な際に MOSC が人員を出す取り決めだったと思うが、現在は全レースに人員を出しているので大変なのでは無いかと質問があったが、荒嶋レース委員長から協定書面では明記されていないこと、現状、リビエラ側の人手不足による派遣要請があるため、その要望を理解し、できる範囲でお手伝いしているとの返答があった。

7、全日本ミドルボート選手権大会について

臼田理事より全日本ミドルボート選手権大会を2024年9月21～23日熱海で開催予定であると報告があった。まだ正式決定ではないので MOSC としては臼田理事からの進捗を受けて協力等々継続審議していくことを確認した。

8、基金口座への預け替えについて

坂口事務局長から毎年1会員様あたり1,000円基金口座に振り替えており、今年度は会員数245人、245,000円を基金口座に振り替える承認を頂きたいとのことで承認可決された。

9、その他

石原通信委員長より神奈川県都市計画道路西海岸線が着工し小網代湾に橋が架かる計画において、JSAF みさきヨット局のアンテナが橋による通信障害が起こる可能性が想定される。そこで9月30日、神奈川県土木事務所のオープンハウスに伺い、みさきヨット局の説明と開局50年来の歴史を紹介し、免許人である JSAF、運用する MOSC、事業体の神奈川県と調整を行い、障害が起きた時の対応補償の要望を提出したと報告があった。

本件に対して小網代ヨットクラブ中心に県土木と交渉するが、最終的には、みさきヨットの免許人の JSAF が県と交渉してもらうこと、MOSC は運用をしている立場として関わっていくことを確認した。また海岸局は運用していないと免許を取り上げられるので積極的に使っていきたいと提言があった。

<報告事項>

1、10月外洋加盟団体長・事務局長会議報告

飯島会長より9月30日函館で全国外洋加盟団体長・事務局長会議が開かれ以下の報告があった。

- ・体験乗船会について、JSAFから体験乗船は旅客ではなく操船補助乗員の扱いとなる為、安全教育やロープワーク等クルー教育として乗船させる必要がある。
- ・各団体からの報告としてMOSCとして年間30レースを開催。うち24レースにレース委員長が参加しておりレース運営メンバーの固定化が心配であると報告した。
- ・加盟団体規定は保留となった。
- ・理事改選について。制度が変わった。女性の理事を増やしていきたい、そのための意見交換があった。
- ・事務局長会議については坂口事務局長から会員システムについて話があったと報告された。

2、関東四団体長会議の予定

坂口事務局長より、外洋三崎の組織体制に変更がある予定で、体制が確定後、年内に関東四団体長会議を復活させようという話にはなっているとの報告があった。

3、関東四団体忘年会

坂口事務局長より、関東四団体忘年会を2023年12月6日水曜日日比谷のビアホールで開催予定。内容はKTS、小網代カップの表彰、外洋東京湾がサーキットシリーズの表彰を予定であると報告があった。

4、小網代カップ報告

高木小網代カップレース実行委員長より参加20艇、2艇リタイア艇が出たものの大きな事故はなく無事終了した。今年は南西からの潮が強く大島周辺は2~4kt流れていたと報告があった。ダブルハンドで参加したテティスの児玉顧問より15kt以上の風の中でのダブルはトラブルがなければ楽しく走れて、1日かけずにフィニッシュできるのでちょうど良いコースではないかとの感想を報告された。

5、供花 元日本セーリング連盟副会長 戸田邦司様

坂口事務局長より戸田邦司様が亡くなられ、関東4団体はそれぞれ供花したことを報告した。児玉顧問より戸田氏は運輸省の官僚でありながらヨットデザイナーもしておりシーボニアのケイセブンは戸田氏のデザインであるなど経歴業績の紹介があった。

6、その他

- ・シーボニア沖にサップ用の筏について

黒岩理事より今年からシーボニア沖にサップ専用の筏が置かれ、進入できなくなっているとの報告がされた。この件に対し漁協に確認し対応していくことを確認した。

- ・こぶりっこミーティング開催予告

鈴木理事より11月18日(土)に「こぶりっこミーティング」を開催する予定であると報告があった。

以上で本日の議事をすべて終了し、次回の理事会は1月17日(水)18時30分であることを確認し、20時02分に理事会を閉会した。

以上

2023 年 月 日

議事録署名人